|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 教科 | 学年 | 単元（小単元）・領域 |
| 数学 | ２年 | 領域：資料の活用単元：確率（確率の求め方） |
| くじ引きでは、くじを先に引く方が得だと考えている生徒は少なくありません。直感的な判断に基づく生徒の意識を覆すのは意外に大変ですが、このような現実に起こった出来事を基にした問題で考えると生徒も自分の試行を客観視できるのではないかと思います。 |

６　【上田市立塩田中学校　油井幸樹　先生　の問題】

 1997年のプロ野球ドラフト会議で実際に起こった出来事です。

横浜、ヤクルト、日本ハムの３球団が競合した選手の２位指名をめぐってトラブルが発生しました。抽選くじを引く順番が違い、交渉権を獲得できなかったヤクルトと日本ハムがやり直しを求めましたが、そのまま当たりくじを引いた横浜に交渉権が与えられました。

くじ引きでは、３本のうち１本が当たりくじで、３球団が順番に引くという方法です。

さて、くじ引きのやり直しをしないという判断は正しかったのでしょうか。

正答

　３つのくじのうち、１つのあたりを①、２つのはずれを２、３として、３球団のくじの引き方を樹形図に表すと次のようになる。



３球団のくじの引き方は、全部で６通りになる。

どのくじの引き方も同様に確からしい。

横浜が交渉権を得られるのは、２通り。

ヤクルトが交渉権を得られるのは、２通り。

日本ハムが交渉権を得られるのは、２通り。

よって、３球団が交渉権を得られる確率はすべて

　したがって、３球団がどの順番でくじを引いても交渉権を得る確率は変わらないので、くじをやり直さなくても公平なことがいえる。